

別表2 アカデミック・リーダー育成プログラム 科目概要

高等教育基礎 (必修 14 時間)				
科目	セミナー等名称	講師(予定)	時間	概要
高等教育論	大学教育改革のトレンドと日本が目指すべき21世紀の学士課程教育像	小笠原 正明 (北海道大学 名誉教授)	2.0	我が国の大学教育は現在、急速な改革の中にあります。マス化・ユニバーサル化やグローバル化・知識社会化が、教育内容・方法の質的変容を迫っているからです。本セミナーでは、国内外における大学教育改革のトレンドを踏まえつつ、特に21世紀日本が目指すべき学士課程教育のあり方について論じます。
	大学教員の役割とキャリア・ステージ (動画)	羽田 貴史 (東北大学 教授)	2.0	本セミナーでは、一般に理解されている大学教員像「大学のなかで研究や教育活動を担う存在」から理解を更に深めるため、大学教員に求められる資質や役割、キャリアパス、そして大学教員が備える倫理について考えます。
高等教育政策論	日本の高等教育政策	羽田 貴史 (東北大学 教授)	2.0	我が国の高等教育は1990年代以降、18歳人口の縮減とグローバル化の進展を背景に多くの課題に直面し続けていますが、実際の高等教育政策は諸課題に対応できているのでしょうか。本セミナーでは、日本の高等教育政策に関する歴史的整理を踏まえつつ、現在の動向と今後の課題を読み解きます。
	世界の高等教育政策	杉本 和弘 (東北大学 教授)	2.0	グローバル化が進行するなか、世界の高等教育には、質保証や市場化といった共通課題に向けた取り組みが求められています。本セミナーでは、欧州、米英豪、アジア太平洋の主要な国・地域で展開されている高等教育政策を概観し、21世紀高等教育の方向性を考えます。
カリキュラム論	大学カリキュラムの構造と編成原理	吉田 文 (早稲田大学 教授)	2.0	大学のカリキュラムは、多様な学問分野の内的な構造や論理を踏まえつつ、教育の目的・内容・方法が統合的に編成される必要があります。本セミナーでは、日米の大学における一般教育(教養教育)カリキュラムを事例に、大学カリキュラムの構造と原理について学びます。
インストラクショナルデザイン	インストラクショナルデザインへの誘い (ワークショップ)	鈴木 克明 (熊本大学 教授)	4.0	インストラクショナルデザインとは、学習ニーズの分析とシステムティックな授業の設計を行うことです。本セミナーでは、ワークショップを通して、より良い学習の環境を総合的にデザインすることを目指し、人はいかに学ぶか、学習とは何かという問題の解決の糸口となるであろうインストラクショナルデザインの基礎的知識を学びます。

高等教育マネジメント (必修 16 時間)				
科目	セミナー等名称	講師(予定)	時間	概要
高等教育の 質保証	大学における教育マ ネジメントと質保証	大森 不二雄 (首都大学東京 教授)	2.0	近年、我が国では高等教育の質保証に向けた議論が活発化し、そのための多様なツールの導入が急速に進んでいます。しかし、重要なのはツール自体ではなく、それらをどう使って(あるいは、使わずに)教育活動全体をマネジメントするかです。本セミナーでは、大学教育の質保証に必要なマネジメントのあり方について考えます。
インスティ チューショ ナル・ リサーチ	データ分析・解釈の 技法(ワークショップ)	串本 剛 (東北大学 准教授)	4.0	高等教育をめぐる事象が多様化するなか、教育改善や意思決定に関わる人材には、関連する情報やデータを整理し、できる限り客観的に解釈できる基礎的素養が必要になっています。本セミナーでは、ワークショップを通して、データを分析し解釈するためのベーシックな技法の習得を目指します。
	データを活用した教 育改善へのステップ (ワークショップ)	鳥居 朋子 (立命館大学 教授) 川那部 隆司 (立命館大学 准教授)	4.0	高等教育における組織的な教育改善に向け、学内情報・データを収集・分析する機関調査(Institutional Research: IR)が重要性を増しています。本セミナーでは、ワークショップを通して、適切なリサーチ・クエスチョンを設定した上で、データを収集・分析して教育改善に結びつけるのに必要な考え方を学びます。
教育学習 評価論	学びの深化と学習評 価 —パフォーマンス 評価を中心に—	松下 佳代 (京都大学 教授)	2.0	現在の大学教育では、アクティブラーニングが政策的に推進されていますが、それが単なる手法にとどまらず、「深い学習」を組みこんだアクティブラーニングになるには何が必要でしょうか。本セミナーでは、知識や技能などを複合的に用いながら生み出される思考や表現のプロセスやプロダクトを評価する「パフォーマンス評価」を中心に、学習評価の理論と方法を紹介し、それがどのように学生の学びを促すのかについて考えます。
研究評価論	研究評価の手法と マネジメント	林 隆之 (大学評価・ 学位授与機構 准教授)	2.0	大学の主要な機能の一つである研究活動には近年、社会から説明責任が強く求められるようになり、その評価のあり方が問われるようになってきました。また、国内外における当該大学の名声に影響を与える研究評価は、機関戦略の点からも重要性を増しています。本セミナーでは、研究評価の手法とそれに基づくマネジメントについて学びます。
専門性開発 論	大学職員の専門性開 発 —その現状と課題—	大場 淳 (広島大学 准教授)	2.0	大学を取りまく課題が高度化・複雑化するなか、大学職員に求められる業務も変化してきています。職員各自が幅広い業務知識を取得するとともに専門力が求められています。本セミナーでは、海外の事例との比較を通して、日本における職員の専門性開発のあり方について考えます。

高等教育リーダーシップ (必修 12 時間)				
科目	セミナー等名称	講師(予定)	時間	概要
大学ガバナンス	私立大学のガバナンスの課題と展望 ー地方中・小私学の可能性を考える	合田 隆史 (尚絅学院大学 学長)	2.0	大学による教育研究等の多様な営みを「統治」するガバナンスのあり方への注目が集まっています。本セミナーでは、大学におけるガバナンスについて、特に私立大学での経験を基に、外部アクターに対するガバナンスと内部におけるガバナンスの問題について学ぶとともにガバナンス強化に必要な取組みについて考えます。
	国立大学のガバナンスとリーダーシップ	吉武 博通 (筑波大学 教授)	2.0	政府財源が逼迫する中、国立大学は法人化以降、機関運営の効率化が要請されるようになり、経営・教学の両面で戦略的かつ効果的なガバナンスが必要になっています。さらに、学長によるリーダーシップが発揮できる体制の整備も求められています。本セミナーでは、国立大学においていかなるガバナンスとリーダーシップが必要なのかについて考えます。
組織マネジメント論	組織のパフォーマンスを向上させる マネジメント (ワークショップ)	藤本 雅彦 (東北大学 教授)	4.0	組織のパフォーマンスを高めるためには有効な組織マネジメントが欠かせません。組織は人間が結びついて目的を達成するためのものであり、ビジョンを共有し、同じ目標のもとで分担しながら活動するために、動機づけや信頼感、相互コミュニケーションなど重要な手法があります。本セミナーはワークショップ形式を通して、組織を有機的に機能させるための方策についてさまざまな事例を基に考えます。
教育財政ガバナンス論	機関戦略と資源配分	水田 健輔 (東北公益文科 大学 教授)	2.0	政府から大学への資金配分の縮減とともに競争的原理が強まるなか、効果的な機関戦略を構築するためには、ミクロな学内資源配分をどう設計・実施するのかがカギになります。本セミナーでは、我が国のマクロな大学財政の状況を踏まえつつ、国立大学を中心に機関レベルの資源配分について学びます。
国際高等教育論	グローバル化する高等教育における国際化戦略・政策・実践	太田 浩 (一橋大学 教授)	2.0	社会経済のグローバル化を背景に、日本の大学においても国際化と質の問題が問われています。政府や産業界からグローバル人材の育成・輩出への要請が高まる中、我が国の大学はいかにグローバル化に対応すべきでしょうか。そのために推進されている政策や実践について、アジア太平洋諸国の政策動向も視野に入れながら考えます。

アクション・ラーニング (必修 98 時間)				
科目	セミナー等名称	講師(予定)	時間	概要
国内大学調査			10.0	各自の課題を相対化しつつ、その解決の糸口を見出すことを目的に、国内大学 (1 大学) を対象とした調査を行います。事前の情報収集や訪問大学へのアポ取りを行い、終了後は「国内大学調査報告」にまとめます。
海外大学調査			34.0	各自の改革案の実現可能性を高めることを目的に、海外大学の関連部署の視察やカウンターパートへの聴き取り調査を行います。事前の情報収集や訪問大学へのアポ取りを行い、終了後は「海外大学調査報告」にまとめます。
イントロダクション		杉本 和弘 (東北大学教授)	1.0	本プログラムの構造や目標について解説します。プログラムで獲得を目指す能力、そのために設定されたプログラム構造を理解し、受講のレディネスを獲得します。
プレゼンテーション / コンサルテーション	プレゼンテーション (5.0*4)		20.0	各自の「改革案」を発表し、他の参加者やアドバイザーを交えた討議を通して、多様な視点を獲得し、新しいアプローチやアイデアを発見・獲得することを目指します。
	個人コンサルテーション (2.0*4)		8.0	大学改革やマネジメントに精通したアドバイザーと 1 対 1 で対話を行い、各自の「改革案」のさらなる改善を図ります。
課題研究	課題研究 I		5.0	集中セミナー I に向け、応募時に提出した「課題概要」を発表するためのプレゼンテーション資料を作成するとともに、セミナー後は、集中セミナー I で学んだことをふり返り、「改革案 I」を作成・提出します。 ※この時間は、プレゼン資料の準備・提出・発表、アドバイザーのコンサルテーション、「改革案 I」の提出がすべて揃って認定されます。
	課題研究 II		5.0	集中セミナー II に向け、国内大学調査の結果を踏まえて、「改革案 I」をブラッシュアップし、発表のためのプレゼンテーション資料を作成します。また、セミナー後は、集中セミナー II で学んだことをふり返り、「改革案 II」を作成・提出します。 ※この時間は、プレゼン資料の準備・提出・発表、アドバイザーのコンサルテーション、「改革案 II」の提出がすべて揃って認定されます。
	課題研究 III		5.0	集中セミナー III に向け、「改革案 II」をブラッシュアップし、発表のためのプレゼンテーション資料を作成します。また、セミナー後は、集中セミナー III で学んだことをふり返り、「改革案 III」を作成・提出します。 ※この時間は、プレゼン資料の準備・提出・発表、アドバイザーのコンサルテーション、「改革案 III」の提出がすべて揃って認定されます。
	課題研究 IV		10.0	集中セミナー IV に向け、海外大学調査の結果を踏まえて、「改革案 III」をブラッシュアップし、発表のためのプレゼンテーション資料を作成します。また、セミナー後は、集中セミナー IV で学んだことをふり返り、総仕上げとして、本プログラムで蓄積してきた知識や経験を踏まえ、「最終報告」を作成・提出します。 ※この時間は、プレゼン資料の準備・提出・発表、アドバイザーのコンサルテーション、「最終報告」の提出がすべて揃って認定されます。

自由聴講科目(8時間)				
	IDE セミナー		4.0	このセミナーは、大学教育に関心を有する国公立大学等の教職員を主な対象として、当面する諸課題について情報共有及び検討を行い、各機関において教育・学生指導の改善・充実を図ることを目的としています。
世界の高等教育リーダーシップ	国際シンポジウム「高等教育の国際戦略とリーダーシップ」	Richard James 他	4.0	大学ガバナンスにおいて学長のリーダーシップのあり方が問われる昨今、改めて我が国の高等教育を統べるリーダーの役割やその育成に対する関心が高まっています。本国際シンポジウムでは、海外大学でリーダーシップを担う現役の管理職や、リーダーシップ研究やアカデミック・リーダー育成に携わる専門家を招聘して、21世紀における高等教育のリーダーシップの行方について議論します。

※今後自由聴講科目は追加されることがあります。